

かわら版 Contents

牛久沼で特定外来生物の 「コウライギギ」を確認

アメリカナマズによく似た魚、それは“コウライギギ”



写真(左) コウライギギ



写真(右) コウライギギ(上)とアメリカナマズ(下)
(チャンネルキャットフィッシュ)

茨城県南部に位置する牛久沼において2024年(令和6年)5月19日、筒漁具に“黄色いナマズ”(体長13.8cm)1尾が入りました。同定の結果、霞ヶ浦で2008年(平成20年)から2012年(平成24年)にかけて発見された、特定外来生物に指定されているコウライギギ(学名:*Pseudobagrus fulvidraco*)と判明しました。当支場としては牛久沼での初めての確認となりました。

なお、地元牛久沼漁協によれば、2021年頃から牛久沼でも釣り人の中でこの魚のことが噂になっていたとのことでした。コウライギギがどのように牛久沼に侵入したかは不明ですが、牛久沼は霞ヶ浦と同じ利根川水系の一部であることから霞ヶ浦との関連が考えられます。

一方、霞ヶ浦では2012年の発見以降これまで、コウライギギが確認されたとの報告はありませんでしたが、2024年(令和6年)6月27日に横ひき網漁で体長約15cmのコウライギギ1尾が採捕されたことから、霞ヶ浦ではコウライギギが定着している可能性が考えられます。

コウライギギは、チャンネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ)と形態がよく似ており、背びれと胸びれに鋭いとげを有しています。また、体色がチャンネルキャットフィッシュより黄色いことや胸鰭のトゲの形状が異なるなどの相違点があります。

コウライギギは元来、東アジア(アムール川から韓国、中国南部)の淡水域に広く分布する種で、体長は最大で30cm、通常は20cm程度まで成長するとされています。コウライギギの生態については現在も不明な点が多いため、霞ヶ浦、牛久沼とも今後の動向を注視する必要があります。もしも、コウライギギを発見した際には当支場へ情報提供をお願いします。

関連情報として、魚類学雑誌:荒山和則・松崎慎一郎・増子勝男・萩原富司・諸澤崇裕・加納光樹・渡辺勝敏(2012)霞ヶ浦における外来種コウライギギ(ナマズ目ギギ科)の採集記録と定着のおそれ。59: 141-146.のほか、いばらき魚顔帳:

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/naisuishi/gyoganchou/index.html> も参照ください。